



INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES  
JAPAN ICOMOS NATIONAL COMMITTEE  
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy  
2-5-5-13F, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo Japan 101-0003  
Tel & Fax: +81-3-3261-5303  
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

報道関係者各位

2014年12月10日  
日本イコモス国内委員会

## 日本イコモス国内委員会が「日本イコモス賞」を創設

日本イコモス国内委員会は、2014年度より、建造物、伝統的建造物群、文化的景観、遺跡である記念物及び歴史風土の保存、保全及び活用の振興をはかるため、「日本イコモス賞」および「日本イコモス奨励賞」を創設しました。

日本イコモス賞は、文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に貢献し優れた業績をあげた者に授与します。日本イコモス奨励賞は、若手研究者の育成と研究の奨励を目的として、文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に優れた業績をあげたおおむね45歳未満の者に授与します。

### 「日本イコモス賞 2014」および「日本イコモス奨励賞 2014」受賞式の開催

「日本イコモス賞 2014」および「日本イコモス奨励賞 2014」の受賞者発表及び授賞式を以下の通り開催いたします。授賞式では、受賞者よりスピーチをいただきます。

### 「日本イコモス賞 2014」「日本イコモス奨励賞 2014」授賞式

日時：2014年12月13日（土）15：15～16：15

場所：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 セミナー室（地階）

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

### ICOMOS

ICOMOSは、1965年に設立された国際NGOで、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体によって構成されています。ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論、方法論、科学技術の研究・応用、およびユネスコの世界遺産条約に関しては、諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。現在、参加国は110カ国を数え、会員は11,000人以上にのぼり、文化遺産の価値の高揚のための重要な役割を果たしています。

日本イコモス国内委員会（1979年発足）は、日本国内のICOMOS会員が組織する団体で、これらの目的を果たすための国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。

## イコモス国内委員会について

日本イコモス国内委員会は、2014年3月現在、約400名の会員によって構成されています。総会の他、年4回の理事会・研究会・来日外国人専門家との懇談会などを開催しています。日本イコモス国内委員会の基礎は、関野克博士（東京大学名誉教授、元東京国立文化財研究所長）によってつくられました。イコモスの第3回総会（1972年、ブタペスト）で日本国内委員会が承認され、関野博士が委員長に指名されました。1979年の総会で日本イコモス国内委員会の規約を採択し、ICOMOS執行委員会の承認を経て正式に発足しました。

## 日本イコモス賞2014 受賞内定者（2者）

※受賞者は12月13日の理事会で正式に承認されます

### 田原幸夫（たはら ゆきお）

京都工芸繊維大学大学院特任教授

#### 【略歴】

京都工芸繊維大学大学院特任教授。1949年長野県生まれ。1973年京都大学工学部土木工学科卒業。1975年同大学同学部建築学科卒業。1975年日本設計入社。1983年ベルギー政府給費留学、ルーヴァン・カトリック大学大学院・保存修復専門課程にてディプロマ取得。「グラン・ベギナージュ」<sup>\*</sup>の保存活用設計に携わる。2003年～2012年東京駅丸の内駅舎保存復原設計監理総括。2014年より現職。

<sup>\*</sup>1998年ユネスコ世界文化遺産登録

#### 【受賞理由】

東京駅丸の内駅舎は1914年に竣工し、本年12月14日に竣工後100年を迎える。1923年の関東大震災にも耐えたが第2次大戦末期の空襲により大破し、仮復旧の姿で長く使用されてきた。赤レンガの駅舎として国民より親しまれ、市民運動等の盛り上がりのなかで2002年、所有者であるJR東日本株式会社により保存と復原の方針が決定され、2003年には重要文化財の指定を受けた。指定時の説明資料には「今回の指定は、都市再生が進みつつある中心市街地における歴史的建造物の保存活用のあり方に、新たな方向を示す画期となるものといえる」と記されている。その指定前後から文化財としての歴史的価値を継承しながら現代に生きる中央駅として機能し続けるという、きわめて困難な事業の検討が開始された。

田原幸夫氏は1983年よりベルギーのルーヴァン・カトリック大学でヴェニス憲章等に則った歴史資産の保存と活用にかかる研究と実践を修め、その後旧新橋停車場復元、立教大学本館保存活用等の設計総括として活躍し、東京駅丸の内駅舎の保存・再生プロジェクトの開始にあたって、JR東日本建築設計事務所の丸の内プロジェクト室室長に就任し、以降10年にわたり、多くの学識者・関係者の意見聴取や調整を重ねながら復原整備方針の決定や具体的設計をリードし、成功に導いてきた。もとより国家事業にも比肩する巨大プロジェクトであるため施工者も含めて数多くの人々の知恵と努力が集積されたが、田原氏の献身的な貢献が無ければ、このような成果は生まれなかったであろう。

本プロジェクトの最大の特徴は、その保存復原の基本方針を文化遺産の保存活用のための国際的な基準に置いて意匠・材料・技法を正確に継承・再現し、インテグリティとオーセンシティを守りつつ使い続けるための具体的設計手法を確立したことである。また、使い続ける文化財としての安全性の確保、機能の変更・強化等様々な条件を確実にクリアして、首都東京の代表的な商業施設として再生したことである。これらが多くの人々に理解され、外国人も含めて従前を大きく凌駕する多くの人の来訪・利用する施設となっていることはこのプロジェクトの成功を強く印象づける。

日本イコモス国内委員会は本プロジェクトが文化遺産の保存・継承、活用において、また都市の活性化と魅力の増進において、国際的にも誇りうる成果を挙げたものとして高く評価し、このプロジェクトを牽引してきた田原幸夫氏に本委員会最初のイコモス賞である「日本イコモス賞2014」を授与するものである。

\*\*\*\*\*

## 文化財庭園保存技術者協議会

代 表：水本隆信

設 立：平成14年2月

### 【活動内容】

文化財庭園を良好な形で維持管理していくための伝統的な技術について、その技術を保存継承するための後継者育成や技術記録に取り組む。

これら文化財庭園においては、庭園の減少や管理頻度の低下など、その技術を発揮する機会が減少し、連綿として培われた伝統的庭園管理技術（文化財庭園保存技術）が衰退の危機を迎えており、文化財庭園の本質的価値が発揮できない状況になっている庭園も少なくない。その状況を受け、技術の記録や後継者育成の研修を年4回ほど、技術者とそれを評価する学識経験者を講師として、研修会を開催している。近年は、東日本大震災で被災した庭園にて研修会を行い、技術を通じた復興支援を行っている。

### 【受賞理由】

日本の世界文化遺産には、奈良時代の平城宮東院庭園を始め、古代、中世、近世を通じて営まれた数々の文化財庭園が含まれる。文化財庭園はさらに広く全国各地で保存・継承され、我国の文化遺産の中でも極めて重要な位置を占めている。一方、庭園は、土石水、植物等の天然素材と建物等の人工物により美しい景観を表わす文化遺産である。季節ごとに変わる植物や土砂の堆積等に対応した日常の管理も調査、復元、保存同様に不可欠な作業である。

文化財庭園保存技術者協議会は、世界文化遺産を含む我国の文化財庭園を保護し、維持管理する技術を後世に伝承する活動を続けてきた。特に、庭園造形を決める地割、形状に骨格を与える石組み、水処理、植物管理の技術を体系化し、庭園の管理技術や庭園を整える作業に優れた技法を確立することで日本庭園の維持管理に努めてきた。

毎年旺盛な研修活動を通じ、その技術の継承、庭園文化の普及に関する社会活動を展開し、文化財庭園に関する造詣を深め、庭園の美的探究を模索しつつ、その価値の普及に重要な役割を果たしている。その成果は、各地の数多くの文化財庭園の保存管理の実践であり、熟練者の技術を若年技術者に伝承する面で着実な成果を挙げてきた。そして、全国各地の庭園保存技術者の積極的な参加をえた研鑽活動はますます盛んになっている。この成果は、文化財保護法に定める選定保存技術団体の中でも特に優れたものとして評価される。

そのため、長年に渡る文化財庭園保存技術者協議会の活動は、世界に誇る我国の文化遺産である文化財庭園に関わる優れた業績を上げたものである。日本庭園の伝統的保存技術の保護・継承と普及活動を讃え、日本イコモス賞を授与するものである。

**日本イコモス奨励賞 2014 受賞内定者（1 者）** ※受賞者は 12 月 13 日の理事会で正式に承認されます

## 清水重敦（しみず しげあつ）

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 准教授。博士(工学)。

### 【略歴】

京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科准教授。博士(工学)。1971年東京都葛飾区生まれ。1993年東京大学工学部建築学科卒業。1999年同大学大学院工学系研究科博士課程単位取得満期退学。独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所景観研究室長、京都大学大学院人間・環境学研究科客員准教授を経て、2012年より現職。

### 【受賞理由】

『建築保存概念の生成史』（中央公論美術出版，2013）の著作。

本書は建造物保護の基礎論とも言うべき建築保存概念の生成の歴史を丹念に掘り起こしてとりまとめた労作である。

著者は本書の目的を、日本近代における建築保存概念の生成過程を、第一に日本近世における過去認識からの継承と転換、第二に「日本建築」概念の生成と並行性、そして第三に世界史における同時代性と影響関係、に留意しながら考察し、日本における建築保存を新たな枠組みにおいて再読するための礎を得ることとしている。

このため、多くの原資料を博捜し、新発見し、自らの問題意識のもとに読み解き、体系的にまとめた。その中で、建築保存の概念の生成について、近世における修理の思想や技術継承とその明治期の転換、また保存制度整備過程の分析等を行い、あわせて伊東忠太、関野貞、松室重光、長野宇平治、武田五一、大江新太郎ら、当時の建築家であり黎明期の建造物修理の指導者であった人々の具体的言説や実績を詳述している。さらに、彼らと現場で一緒に働いた大工出身の技手たち等についても丹念にその業績をたずね、活写している。そして、その修理事例を関係資料や修理報告書等をもとに詳細に分析し、その意味づけを行っている。たとえば、明治期の奈良県における大規模歴史建造物修理に採用されたトラスの挿入についても、その意図、方法、効果、挿

入の意思決定過程等について精緻に分析している。これら膨大な作業の上にこの大部の書籍が成った。

本書は、著者の鋭い批判的精神をもとに、これまでの定説や常識を打ち破り、我が国の歴史的建造物の保存概念の生成と修理の歴史を新たに体系的にまとめたものであり、今後、歴史的建造物の保存について考察するとき、必ず参照せねばならない基本文献となり、教科書となるものであろう。

今日、我が国の歴史的建造物保存は、従来の精緻な理論と技術による指定建造物の保存修理のみならず、登録文化財や歴史的町並みの保存、さらには文化的景観の保全をも視野において拡大しつつある。その中で、活用や防災についても従前以上の取り組みが求められている。またこれらに対する国際的な関心と期待、批判にも積極的に対応していく必要がある。その先に我が国における都市や地域の歴史性の保全的継承の全体的な道筋が見えてくるであろう。その意味でこの著作の位置付けは極めて大きなものがある。

本書は2013年に刊行され、著者 清水重敦氏の42歳の著作である。我が国の文化財建造物保護活動全般にとって大きな成果であるとともに、我が国の建築保存哲学を国際的に紹介する確かな礎ともなり得る業績として、「日本イコモス奨励賞2014」を授与するものである。

#### 《本件に関するお問合せ先》

日本イコモス国内委員会事務局

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会気付

電話/FAX：03-3261-5303

E-mail: [jpicomos@japan-icomos.org](mailto:jpicomos@japan-icomos.org)

Web: <http://www.japan-icomos.org>